

黒目の里をあるく

文化財散策ガイド 3



妙音沢古絵図

文化財は、身近なところで、私たちの先祖の生活や知恵を伝えている大切なものです。文化財をよこしたり、管理している方に迷惑をかけたりしないよう気をつけましょう。

片山の歴史

黒目川のひらけた沖積低地に展開する片山は、古くは片山郷で、「黒目の里」とも呼ばれていました。川と湧水に恵まれた黒目川流域には、旧石器時代から中世にかけて約60か所の遺跡があります。

既に3万年～1万5千年前頃の旧石器時代には市場坂遺跡や池田遺跡に、ナイフ形石器や細石器などの先人たちの足跡がみられます。嵯峨山遺跡では、数多くの縄文時代の住居跡と生活用具などが発見されています。古墳時代から奈良・平安へと時代が進むにつれて、黒目川流域全体に居住空間が広がります。そしてムラへと拡大していきました。

天平宝字2年（758）、武蔵国に新羅郡が設置され、片山はその郡下に属します。新羅郡は、延長5年（927）には新座郡へと名称が転じていますが、新座市の市名はこの歴史的郡名に由来するものです。

片山郷は、鎌倉時代の弘安2年（1279）に記録された「武蔵国国庫五升米納貢数注文」によると国衙領として記載されています。やがて中世武士の台頭から、片山郷の出身である片山氏が、鎌倉から南北朝時代にかけて黒目川流域を中心に活躍します。一方、法台寺を中心とした時宗二祖・他阿真教上人の活躍もみられ、時宗の人たちによる板石塔婆（板碑）が造立されました。

近世に入ると江戸近郊という政治的位置から旗本の支配下におかれ、黒目川沿いには、栗原・原ヶ谷戸・石神・野寺・下片山・中沢・下中沢・堀ノ内・十二天・辻の10か村が成立しました。村々は木村、桜井、米津など「片山七騎」と呼ばれる7人の旗本によって知行され、幕領として明治維新まで続きました。

明治8年（1875）4月に片山10か村は、統合して片山村となり、やがて幾多の変遷を経て昭和30年（1955）3月に大和田町と合併して、新座町の大字の一部、片山となり、さらに昭和45年（1970）11月の市制施行により現在に至っています。

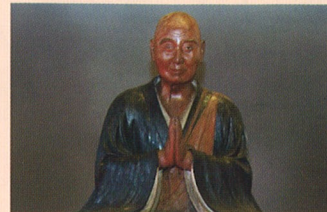


詳しくは市ウェブサイトへ

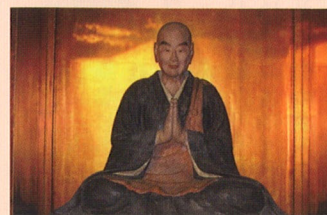
ほうだいじいたいしとうばぐん
法台寺板石塔婆群（県指定文化財）



もくそうた あんきようしやうにん ざ ぞう
木造他阿真教上人坐像（県指定文化財）



もくそうかんちこくしざぞう
木造観智国師坐像（市指定文化財）



つきまちし ぞう ぼさつ
月待地藏菩薩（市指定文化財）



稲荷会館に安置されている石造の地藏菩薩は、文安3年（1446）に造立されました。光背は円頂形で、像高45cm、幅30cm。銘文から室町時代には月待信仰の対象にされていたことが分かります。この地藏菩薩は、県内最古の石仏です。

はらがや とむらなめし
原ヶ谷戸村名主資料（市指定文化財）



本資料は原ヶ谷戸村の名主を務めた、栗山家に伝来したものです。中でも天保7年（1836）の原ヶ谷戸村絵図には、黒目川の川筋、道筋、高札場の位置などが記されており、江戸時代後期の村落景観を知ることができます。

けんぼんちゃくしよくべんざいてんぞう
絹本著色弁財天像（市指定文化財）



妙音沢伝説にまつわる室町時代前期と推定される弁財天の画像で、水辺に突出した岩の上に座って琵琶演奏する様が描かれています。弁財天はインドの古代神話における河を神格化した女神であり、琵琶演奏の弁財天像は主に音楽神として信仰を集め、中世以降盛んに造立されました。

もくそう あみだ にやらい かん のん せいし ぼさつりゅうぞう
木造阿弥陀如来及び観音・勢至菩薩立像（市指定文化財）



法台寺の本尊で、三尊像は各像ともに寄木造、玉眼嵌入、肉身部漆箔、着衣部黒色泥彩で、造立時の姿をよくとどめています。室町時代初期の造立と考えられています。中尊の阿弥陀如来像は像高77.5cm、脇侍の観音菩薩像は48.2cm、勢至菩薩像は47.9cmで、三尊一具の中世彫刻として貴重なものとなっています。

くりはらむらなめし
栗原村名主資料（市指定文化財）

本資料は栗原村の名主を務めた、原井家に伝来したものです。特に正徳4年（1714）の栗原村検地帳3冊は、片山地区の村落構造と村の歴史を知る基本資料です。

えの 楓 き 木 さか 坂

川越街道を野火止台地から下る坂。片山道との交差点に大きな榎木があったためにこの名がつけました。

え 江 と 江 戸 往 環 道

清瀬から江戸に至る道。近隣の人々によって、農作物を江戸に出荷するための道として利用されました。

く 供 よう 養 とう 塔

江戸往還道沿いにある石塔。「南・大山、西・ところさわ」と刻まれている道しるべも兼ねた供養塔です。

ひ 樋 の はし 橋

黒目川にかかる木橋。江戸時代には伊勢物語の伝説から「火の橋」とも記されました。

あぶら 油 めん 面 ざか 坂

法台寺の灯明料として、村人が坂の付近にあった田畑を寄進したことから、油面の坂と呼ばれました。

中 沢 用 水

江戸時代に作られた黒目川からの用水路。石神付近から分水し、いくつかの湧水を合わせて市場坂下に流れています。

ば 馬 くらう 喰 はし 橋

黒目川にかかる橋。江戸時代は清戸道の主要な橋であり、人馬の往来が多かったのでこの名がつけられました。

弁 天 池

武野神社の下にある湧水池。元禄年中の新座郡改定図には野寺村の弁天として記されています。

片 山 富 士

法台寺境内にある富士塚。「新座七富士」の一つで、富士講の一つである丸吉講の人々によって天保年間に作られました。

板 紙 工 場 跡

日本で一番最初にできた板紙（ボール紙）工場の跡。黒目川の水と水車を利用して設立されました。

釈 迦 堂

浄明寺釈迦堂といい、石神の共同墓地になっているところ。堂内には室町時代の鉄仏が納められています。

たき み 滝 見 観 音 堂

滝見観音の伝説があるお堂。本尊は中国より渡来したといわれる、滝を背にする観音像です。



編集・発行 新座市教育委員会生涯学習スポーツ課
新座市野火止一丁目1番1号 TEL048(477) 1111
<http://www.city.niiza.lg.jp/site/bunkazai/>

平成27年3月改訂